



2007年3月2日
慶應義塾大学 SFC 研究所
ヘルスケア・インフォマティクス・リサーチ・ラボ
NMC-Cube プロジェクト

慶應義塾大学 SFC 研究所 NMC-Cube プロジェクト
看護用具・用品の製品開発支援ウェブサイト「NMC-Cube」開設
～ケア提供の専門家と開発メーカーをつなぐ～

ユーザ志向の看護用具・用品開発について研究する「NMC-Cube プロジェクト」(プロジェクト代表：慶應義塾大学看護医療学部助教授・安田恵美子/慶應義塾大学 SFC 研究所 ヘルスケア・インフォマティクス・リサーチ・ラボ)では、看護師等のケア提供者と看護用具・用品開発メーカーの意見交換・合意形成を促進・支援するウェブサイト「NMC-Cube」を2007年3月2日に開設いたしました。

NMC-Cube プロジェクトは、慶應義塾大学看護医療学部(NMC)の研究者が中心となり、Communication(情報交換)・Consensus(合意形成)・Collaboration(連携協働)により、ユーザ志向の看護用具・用品開発を支援する研究プロジェクトです。この度、情報交流の「場」である、ウェブサイトの準備が整いましたので、本日より広く関係者の皆様に公開いたします。本サイトの情報の書き込みや意見交換は、登録制で行います。ユーザであるケア提供者は、看護用具・用品の問題点を掲示板や社会調査のセクションで発信することができます。一方で、看護用具・用品のメーカーは、自社の看護用具・用品の情報公開とケア提供者の製品評価及び意見の収集が可能になり、製品改善を実現できます。また、テーマごとにディスカッションのコーナーも設け、関係分野の社会調査も積極的に展開し情報発信していく計画です。

なお、本プロジェクトは、平成17年度採択文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業ハイテク・リサーチ・センター整備事業「e-ケア型社会システム形成」(e-ケア HRC)の一環として、推進しています。

今後、本プロジェクトでは、全国の看護師をはじめとしたケア提供者の方々や、看護用具・用品メーカーの関係者のみなさまに広く告知し、NMC-Cube に参画いただきながら活性化を図り、より良い看護用具、用品の開発に貢献してまいります。みなさまのサイトへのアクセスをお待ちしております。

NMC-Cube : <https://www.e-care-project.jp/HRC/entity/nmc-cube/>

※ヘルスケア・インフォマティクス・リサーチ・ラボ：

慶應義塾大学SFC研究所の研究者が中心となる、ITを活用したケア環境の構築と高度化による、安心してその人らしい生活を送れる環境（ヘルスケアコミュニティ）の実現を目的とした研究グループです。

<http://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/lab/ecare.html>

※NMC-Cube：慶應義塾大学看護医療学部(MNC)の研究者が中心となり、Communication(情報交換)・Consensus(合意形成)・Collaboration(連携協働)の三点を促進させ、相乗効果の下でより良いユーザ志向の看護用具・用品開発を支援するという意味からこのように名付けました。

※e-ケア HRC：

慶應義塾大学 SFC 研究所が、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業ハイテク・リサーチ・センター整備事業による私学助成を得て、平成17年度から5カ年計画で、情報通信技術を介護福祉分野に活かし、e-ケア型社会システムの形成とその応用の融合研究を進めている研究プロジェクトです。

<https://www.e-care-project.jp/HRC/>

■研究メンバー

安田恵美子 慶應義塾大学看護医療学部助教授

西山 里利 慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員(訪問)
静岡県立大学看護学部講師

西山 敏樹 慶應義塾大学政策・メディア研究科講師

■ 本件の問い合わせ先：

MNC-Cube プロジェクト： web-nmc-cube@sfc.keio.ac.jp

●現場のニーズをカタチにする「NMC-Cube」●

ケア提供者、開発メーカーの皆様、NMC-Cube で現場のニーズをカタチにしませんか。

NMC-Cube の目的は、より良いケアにつながる看護用具・用品開発の支援です。3C(Communication・Consensus・Collaboration)によって、「患者とケア提供者のニーズをカタチにする」、これがNMC-Cubeのねらいです。その患者とケア提供者のニーズをカタチにした一例として、ウェブサイト開設以前に共同開発した点滴架台(画像参照)について紹介します。

本点滴架台の開発に当たっては、患者とケア提供者の両者にとって、より良い点滴架台とは、どのようなものか？(現場のニーズ)を、下記の1～5のステップをふんで、企業と共に点滴架台を開発しました。

1. 看護師を対象とした現状調査の実施・分析・評価
2. サンプルモデル機の製作、安定性実験の実施・分析・評価
3. 新製品モデル機の患者と看護師へのモニター調査の実施・分析・評価
4. 明らかになった必須要素を踏襲した点滴架台(図参照)の製作
5. 意匠出願・登録

なお、点滴架台における現場のニーズとしては、治療や検査等で点滴をする際、点滴ボトルを架台にかけますが、この点滴架台には、歩きやすさ、走行時の静かさ、点滴ボトルのかけやすさの他、バランスの悪さやカーテンへの引っかかり等の改善が挙げられました。



開発した点滴架台
左(西山里利)・右(安田恵美子)

「点滴用スタンド」

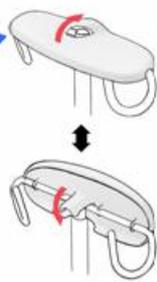
意匠登録第1288558号

250ml以下の点滴ボトルがかけられるフック付き点滴用スタンド。

「点滴スタンドカバー」

意匠登録第1275413号

カーテンの引っかかりや、フック部の露出による二次的な事故を防ぐため、フック部の露出をカバーした懸架部



《ワンタッチ操作リング》

片手でのワンタッチ操作により、上部支柱をスムーズに高さ調節できる。

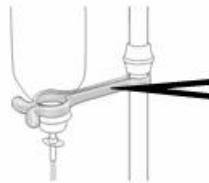
《カラフルなデザイン》

使う人に優しい印象を与えるデザイン。上部支柱、下部支柱は、強化アルミ製。

「点滴容器保持具」

意匠登録第1275412号

(輸液は1,000ml以下対象)
歩行時、歩行停止時の点滴バッグの揺れを減少させる。



《縦式グリップ》

高い段差や狭い箇所で一時的に架台を持ち上げる際、力を入れやすい。

《横式グリップ》

進行方向がわかるように、デザイン。(輸液ポンプなどを設置する際、進行と逆方向に設置する) 握りやすい形状と素材。

《低重心設計》

安定性の良い低重心。

《段差乗り越えステップ》

凹部に足をかけて踏み込むことで、段差を乗り越えやすくする。

《車輪取り付けバー》

表面、裏面ともに清掃しやすく、堅牢なパイプ。

《50mm径の双輪》

騒音の少ない50mm径の双輪。

※本図は開発途中のイメージであり、実際に製品化される物とは異なることがあります。

■本点滴架台の共同開発者：

モリト株式会社 汎用資材事業本部

ファスニング資材営業部 大阪第三グループ

蔭山 毅彦

大阪府中央区南本町4丁目2番4号

TEL：06-6252-3557

FAX：06-6252-3980

図 開発した点滴架台の特長